

公立大学法人札幌市立大学
第一期中期目標期間の業務実績に関する評価結果

平成24年8月

札幌市地方独立行政法人評価委員会

1 公立大学法人札幌市立大学の中期目標期間評価の方法

- (1) 中期目標期間評価は、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。
- (2) 項目別評価は、各中期目標期間における中期計画の次に掲げる事項（大項目）の進捗状況の確認又は評価を行う。
 - ① 大学の教育研究等の質の向上
 - ② 業務運営の改善及び効率化
 - ③ 財務内容の改善
 - ④ 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供
 - ⑤ その他業務運営
- (3) 項目別評価に当たっては、まず、公立大学法人から提出された業務実績報告書等を検証し、中期計画の記載項目ごとの事業の進捗状況について、次に掲げるⅠ～Ⅳの4段階で評価を行う。公立大学法人による評価と評価委員会の評価が異なる場合は、その理由等を示す。

Ⅳ：中期計画を上回って達成している。

Ⅲ：中期計画を十分に達成している。

Ⅱ：中期計画を十分に実施していない。

Ⅰ：中期計画を実施していない。
- (4) (3)の結果等を踏まえ、中期計画の大項目ごとに、事業の進捗状況について次に掲げるS～Dの5段階で評価を行う。

S：特筆すべき進捗状況にある（評価委員会が特に認める場合）

A：計画どおり進捗している（すべてⅣ又はⅢ）

B：おおむね計画どおり進捗している（Ⅳ又はⅢの割合が9割以上）

C：やや遅れている（Ⅳ又はⅢの割合が9割未満）

D：重大な改善事項がある（評価委員会が特に認める場合）
- (5) 全体評価は、項目別評価の結果等を踏まえ、中期計画の進捗状況全体について、総合的に評価を行う。

2 全体評価

公立大学法人札幌市立大学（以下「市立大学」という。）の中期目標及び中期計画に掲げられている事項について、平成18事業年度から平成21事業年度の4年間の中間評価と平成22事業年度の年度評価を振り返り、平成23事業年度に係る業務及び中期目標期間に係る業務の実績に関する報告書（以下「報告書」という）及びヒアリング等から期間評価を行った。

第1期中期目標期間の業績評価としては、「項目別評価」の結果では、1項目でB評価（おおむね計画どおり進捗している）とし、そのほかの4項目についてはA評価（計画どおり進捗している）となっており、中期計画の小項目ごとの評価からも、全体としては、行うべき事業を行い、順調に業務を遂行していると評価できる。

なお、項目別評価の基礎資料となる公立大学法人札幌市立大学の第1期中期計画に記載項目（小項目）ごとの評価（小項目評価）においても、小項目数161項目のうち、5項目がⅣ評価（中期計画を上回って達成している）、153項目がⅢ評価（中期計画を十分に達成している）となっており、これらを合わせると161項目中158項目（98%）が中期計画実施の水準を満たしている。

また、毎年度の詳細な年度計画の評価等を通じて、大学業務全般にわたって改善に取り組んでいることが、報告書からもうかがえた。

以上のことから、業務全般にわたってほぼ順調に取り組まれており、第1期中期計画の達成状況は概ね満足できると判断される。

中間評価では、開学間もない大学であるにもかかわらず、受験者数、外部資金の獲得状況、公開講座の開講数などにおいて現時点の到達状況は概ね満足できるが、以下の点においてさらに努力が必要であるとした。

- (1) 地域連携に関する戦略的な取組
- (2) 国際交流に関する取組の推進
- (3) 評価文化に対応した適切な情報の提供
- (4) 人材の計画的養成

中間評価で指摘した事項のうち、地域連携に関する戦略的な取組と国際交流に関する取組の推進は、一定の水準まで改善されたと判断される。

例えば、地域連携では、市立大学の特色が顕著に表れている大学院における「連携プロジェクト演習」の取組のほか、北海道立総合研究機構との提携や地域連携を目的とした研究交流会の取組などの産業界との連携が具体化し始めている。

また、国際交流については、「国際交流事業促進支援制度（短期）実施要領」を策定したことや海外交流提携校との交流のほか、平成22年度にはデザイン学部にて初めての留学生を、平成23年度には大学院にて初めての留学生を受け入れるなど、成果が出始めている。

今後は、札幌市の姉妹都市の大学との戦略的連携など、札幌市の国際交流政策と連携した取組を進めていくことを期待したい。

評価文化に対応したアピール力に関しては、十分とは言えないまでも、次第に改善されてきていることは認められる。第1期中期計画が総花的で項目数が多く、対応しにく

いという構造的な問題もあったと考えられることから、項目が重点化された第2期中期計画において、さらなる改善を期待したい。

人材の計画的な育成については、大学の経営を支える専門性の高いプロパー職員の計画的な育成を進める一方で、限られた職員で業務を確実に遂行できるよう業務改善に取り組む必要がある。中間評価でも指摘したとおり、大学経営にもっとも重要なのは、「人財」であるので、人材を育て「人財」にしていくための方策を講じていただきたい。

今後の最も大きな課題は、「単位制度の実質化」である。このままでは、国際標準に照らして見た場合に、社会的な批判を受けることが予想される。とりわけ、学期単位のキャップ制は単位制度の実質化に密接に関係しており、それが教養・専門教育にかかわりなく重要なものであることを理解したうえで、成績評価基準の確立やGPAの活用なども含めて、単位制度の実質化に取り組む必要があると考える。

第2期中期計画は、第1期に比べてより重点的なものとなっている。教育・研究・経営のそれぞれについて、しっかりとマネジメントサイクルを実施できるよう、「何を」「どのように」「誰が」「どこまで」実施するかまでを見通し、期待される成果を具体的に想定して、何を指標としてどのように達成度を測るかまでを考えて年度計画の作成を行い、自己点検がより効果的に行われることを期待したい。

適切な年度計画の作成により、市立大学は主体的に、自らの問題として将来計画に取り組み、評価委員会の意見を「利用」しながら、効果的に計画を進められるものと考えている。

今後、18歳人口は減少の一途をたどり、大学にとって極めて厳しい環境となる。社会情勢の変化を十分捉え、第2期中期目標・中期計画期間においては、より市立大学の個性を発揮し、その使命を果たすことができるよう、理事長のリーダーシップの下、これまで以上に積極的な大学運営を進めていくことを期待する。

3-1 教育研究等の質の向上に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

B（おおむね計画どおり進捗している）

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、小項目数104項目に対して、「中期計画を上回って達成している（Ⅳ評価）」又は「中期計画を十分に達成している（Ⅲ評価）」と評価されたが項目101項目であり、全体に占めるその割合が9割以上であることから、B評価（おおむね計画どおり進捗している）とする。

（参考）小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分達成	Ⅳ 上回って達成	
104	0	3	96	5	97%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

(ア) 中期計画を上回って達成している項目として、次のものがあげられる。

- ・ 新設大学で学年進行中であるにもかかわらず、「文部科学省教育G P」を獲得し、看護学部教育課程について各学年でO S C Eを実施するなど、専門分野に求められる知識・技術等の体系的教育について、中期計画以上の成果をあげている。
- ・ 「文部科学省就業力G P」による卒業生を対象としたシャトル研修、14コースの公開講座の実施、まちづくりへの貢献は学生の就業力育成あるいは地域還元の良いプログラムとして評価できる。
- ・ 教育内容に関する目標を達成するための措置としての教育方法及び履修指導方法、特に実践的な授業の重視について、就業や起業に向けた機会を早期に設け、高年次でのインターンシップによる社会体験を行っている。
- ・ 看護学部は、認定看護管理者のサードレベル教育機関の認定を全国で4番目に受け、現職の看護管理者への教育を実施したこと、さらに看護職への復職希望者のための教育に取り組んでいる。
- ・ 大学院における「連携プロジェクト演習」は札幌市立大学の特色が顕著に現れているので、高く評価できる。

(イ) その他、次に掲げる点が注目される。

- ・ 「スタートアップ演習」においては、大学生としての主体的学習のレディネスを高めるための札幌市立大学に適した問題解決プロジェクト活動などの工夫がみられ評価できる。
- ・ 単位互換制度の導入の意義を議論し、実現に向けて努力することが期待される。
- ・ e ラーニングシステムが遠隔授業のみならず一般に授業に有効であることが

認識され、次第に利用が広がっていることは評価できる。

- ・ シラバスにおいて「到達目標」と「成績評価基準」をリンクさせ、成績評価方法を数値化できるようにしていること、また成績評価基準を学生生活ハンドブックに明示するとともに、個々の授業科目の基準をホームページで公開していることは評価できる。
- ・ 札幌地区を中心に、FD／SD活動の大学間交流をさらに活発に行うことが期待される。
- ・ 短期間のうちに先進的なTA研修を導入したことは評価できる。TA制度のさらなる拡大・発展が期待される。
- ・ 札幌市の姉妹都市の大学との戦略的な連携に、札幌市と連携して取り組むべき時期に来ているので、今後に期待したい。
- ・ 海外の大学・研究機関等との連携や協定による研究者・学生の交流制度等の充実については、中期計画の最終年度で成果が出始めた。
- ・ 平成23年度に大学院で初めての外国人留学生を受け入れたことは評価できる。今後とも優秀な外国人留学生の勧誘、受け入れに努力して欲しい。

イ 遅れている点

- ・ 学期単位のキャップ制は単位制度の実質化に密接に関係しており、それが教養・専門教育にかかわりなく重要であることが組織として理解されていない。GPAについては、デザイン学部におけるコース分けの人数調整等に使われているものの、単位制度の実質化の観点から見た場合には、活用に至っていない。GPAを有効に活用するためには、成績評価基準の厳格化などの単位制度の実質化に取り組む必要がある。
- ・ 新設大学で教育カリキュラムを作り上げるという労力は大きかったと思われるが、大学である以上、研究も着実に推進すべきである。特に、科学研究費補助金申請率の向上のために、数値目標を掲げる必要がある。
- ・ UMA P の性格について見込み違いがあり、それに代わる活動対象も見つかっていないことから、計画を下回っていると判断せざるを得ない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 入学者に対するアンケート調査などの継続した調査により、何を知りたいかを具体的に示すべきである。例えば、デザイン学部においてコース選択が一方の性別に偏る傾向が現れている、性別によって志望するコースに違いがある、などの点に留意し、今後の動向に注意する必要がある。
- ・ 大学独自の奨学金制度の創設は望ましい方向であるが、そのためにも、より精度の高い成績評価法を確立する必要がある。
- ・ 助手について、「実習要項の作成等」が実習の準備に関する事項としてあげられている。実習の位置づけは、実践の科学である看護学の仕上げのレベルに位置づけられる。このため、評価項目等の実習指導要項の作成は、きわめて重要かつ高度な教育的活動である。どのようなレベルで助手がかかわっているか詳細は不明であるが、たとえば要項(案)の作成に携わっているとすれば、再考願いたい。
- ・ 大学院を中心に国際化を進展させるという方針であることが、中期計画の途中で明らかにされた。ある程度当初から予想されたことであり、国際化については、やや進展が遅れたということを真摯に受け止めるべきであろう。

- 年度計画や中期計画で実施することとされている卒業生追跡調査や教員の研究成果の外部評価など、資料のみでは状況が判断できない項目が散見される。外形的評価というスタイルで評価を実施する評価委員会が、状況を把握し評価を行うためには、調査結果や教員業績一覧などの資料が必要であり、必ず添付するといった配慮をしてほしい。資料等で実施状況等が把握できなければ、計画を十分に実施しているとは判断することができない。

3-2 業務運営の改善及び効率化に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「中期計画を十分に達成している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分達成	Ⅳ 上回って達成	
30	0	0	30	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目評価において中期計画を上回って達成している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 教員評価制度を継続的に運用し、特に研究活動に顕著な活動が見られた教員の研究費へ反映するなどした。これを進め、教員が自分の研究の発展のために外部資金獲得により一層努力を傾けるようになって欲しい。そのために、さらなる内部資金の重点的配分が必要と思われる。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 第1期中期目標期間中は、マネジメントサイクルの実施が不十分な業務が見受けられたが、最終年度に、平成24年度から22項目について四半期ごとのマネジメントサイクルを実施することが決まるなど、評価委員会の指摘を受けた改善が一定程度なされた。第2期中期計画は、項目が重点化され、項目がスリムになっており、マネジメントサイクルが十分に機能することを期待したい。
- ・ 教員の業績評価制度が教員の活動にどのような影響を与えるかをモニターしながら、制度の精度と信頼性を高める努力が必要である。また、教員評価の精度及び信頼性について、より具体的に根拠をもって示せるようにして欲しい。
- ・ 札幌市の派遣職員から順次プロパー職員への切り替えを着実に進めていることから、専門性の高い職員の育成を計画的に行う必要がある。また、札幌市職員の人事評価を準用することが、大学が求める人材の育成につながるのかについて、検証することも必要と思われる。

3-3 財務内容の改善に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「中期計画を十分に達成している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分達成	Ⅳ 上回って達成	
12	0	0	12	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目評価において中期計画を上回って達成している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 地域連携研究センターが中心となり、産業界が参加する展示会への出展や産学官連携を目指した学外研究交流会の開催をした結果、民間企業等からの受託研究の受入や北海道立総合研究機構との連携などの成果に結びついた。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ 科学研究費補助金の申請率や外部資金の獲得額については、第2期中期計画において設定されている指標の達成に向けて、大学全体で危機感を持って取り組んでいただきたい。

3-4 教育及び研究並びに組織及び運営の状況について自ら行う点検及び評価並びに当該状況に係る情報の提供に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「中期計画を十分に達成している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分達成	Ⅳ 上回って達成	
7	0	0	7	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目評価において中期計画を上回って達成している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- 公開講座については、量から質への方向転換がなされ、受講者の満足度が高い状況にある。第2期中期計画では、受講者の満足度等の成果指標が設けられており、その達成に向け、より積極的に取り組むことを期待したい。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

特になし。

3-5 その他業務運営に関する項目別評価

(1) 評価結果及びその判断理由

ア 評価結果

A (計画どおり進捗している)

イ 判断理由

この項目についての小項目評価の集計結果では、すべての小項目において、「中期計画を十分に達成している(Ⅲ評価)」と評価されたことから、A評価(計画どおり進捗している)とする。

(参考) 小項目評価の集計結果

小項目数	評価結果				Ⅳ又はⅢの割合
	Ⅰ 実施せず	Ⅱ 十分実施せず	Ⅲ 十分達成	Ⅳ 上回って達成	
8	0	0	8	0	100%

(2) 特筆すべき点・遅れている点

ア 特筆すべき点

小項目において中期計画を上回って達成している項目はないが、次に掲げる点が注目される。

- ・ 学生と教職員が一体となり、大学の知的資源等を活用した省エネの取組等に取組んでいる。

イ 遅れている点

遅れている点は特に認められない。

(3) 評価委員会からの意見等

- ・ ハラスメント等の防止については、TA研修で使用している資料が非常によくまとめられているので、教員研修で活用すると良いと思う。